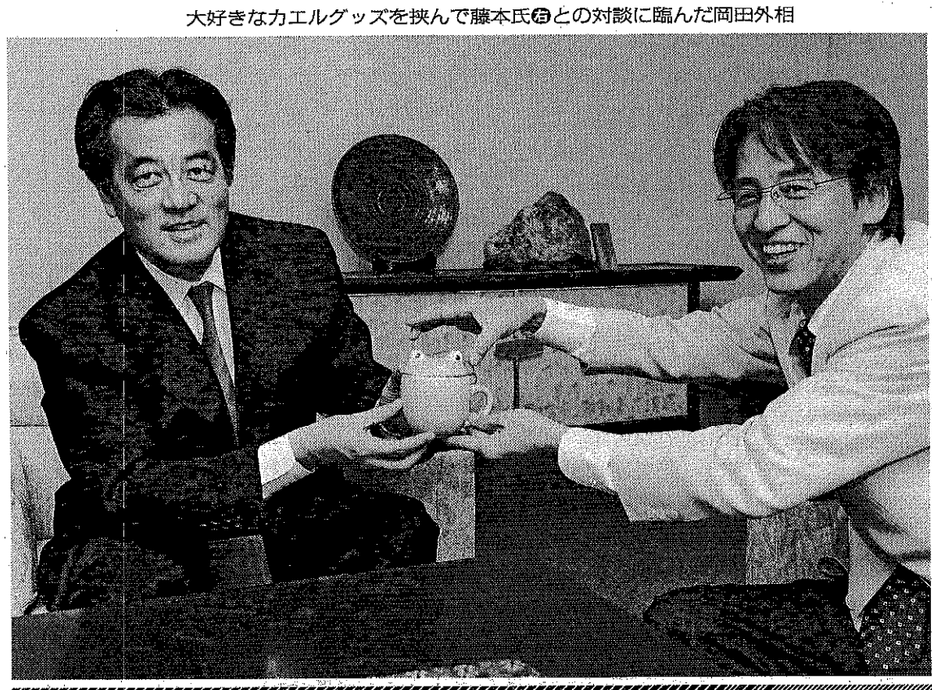
平成22年6月20日号

東京スポーツ

第3種郵便物認可

大好きなカエルグッズを挟んで藤本氏(右)との対談に臨んだ岡田外相



藤本順一氏が岡田外相に迫る

脱小沢は？ 普天間問題は？ 南アW杯は？

民主党のキーマンと緊急対談

永田町特別ワイド

〈毎週土曜掲載〉国会は菅直人首相（63）への各党代表質問を終え、16日閉会した。「脱小沢」「政治主導」を掲げる菅政権は中国大使に伊藤忠商事相談役の丹羽宇一郎氏（71）ら民間人の起用を決定。新外交路線スタートにあわせて岡田克也外務大臣（56）が、本紙「永田町ワイドショー」藤本順一氏との特別対談に登場。脱小沢からサッカーW杯まで、ざっくばらんに語った。

藤本　新政権が発足した途端に党、内閣支持率はV字回復です。ようやく民主党らしさが戻ってきたとの期待からでしょうか。「脱小沢」が功を奏しましたね。

岡田　あまり小沢さんを基準に物事を言ったり考えたりしない方がいいと思う。我々には政府・党の一体化や政官の役割の見直しなど、政治主導を確立するために野党時代から積み重ねてきた議論がある。ところが現実の政策を実現していく中で様々な困難に直面し、国民の期待に十分応えることができなかった。菅政権はその反省から、もう一度、民主党らしさの原点に立ち返ってスタートしたということです。

藤本　その意味では政権交代後も岡田大臣だけは民主党らしさを失わずに、淡々と職務をこなしてきたのでは。外相就任早々、密約調査を行い、情報公開を推進するなど、民主党が目指す政権の姿を国民に示しました。

岡田　情報公開は民主主義にとって最も基本的なこと。外交は国と国との信頼関係もあり、機密情報をすべてオープンにできるものではないですが、一定の時間がたてば公開し国民的な視点で検証できるようにするのが大事。ずっと表に出なければ誰も評価のしようがないし、国民からかけ離れた外交になってしまう。

藤本　歴代首相などが米国の核兵器搭載船の寄港・通過を非核三原則の例外としていたのを公表した歴史的な調査でしたが、過去の外務省幹部による密約文書の破棄を調査する際には、官僚の抵抗もあったのでは。

岡田　徹底調査の末、ほぼ思い描いた通りの結果を出せた。情報公開のルール「30年たてば原則自動公開」もつくった。官僚が情報を独占すれば、外交がミスリードされる恐れがある。密約調査は外務官僚の意識改革につながったのではないか。長い目で今後の外交に良い影響を与えると思う。

藤本　普天間基地問題では岡田大臣とヒラリー・クリントン国務長官（62）ラインで日米合意に決着をつけたと映った。

岡田　ヒラリー長官とは5回会談し、お互い実務的だし、信頼関係のもとで懸案を解決してきた。首脳外交のように見せる」のを意識したものではなく、外相会談は中身でやっていけばいい。特に、ジョン・ルース駐日米国大使（55）とずっと交渉をやってきた信頼関係は大きかったと思う。日米合意に対しては、特に沖縄の方々は「どうして日米関係が先行するんだ」というお気持ちがあると思う。しかし、合意したことで日米同盟へのマイナスの影響を最小限にとどめることができた。これから沖縄のみなさんに理解していただく困難な仕事が待ち受けている。

小沢さん基準で物事を考えない方がいい

同姓の岡田監督が叩かれるのはつらいよ

藤本　中国大使に丹羽氏、ギリシャ大使に野村証券顧問の戸田博史氏（58）と民間からの起用を決定。大使人事の常識を破った。一方で外交の素人がしたたかな中国と渡り合えるのか不安もある。

岡田　大使は外交官でなければならないという固定観念にとらわれず、適材適所で決めました。初めに丹羽さんありきではありません。米国はルース大使も、駐中国大使も外交官ではない。人間としての力量が重要で、民間まで視野を広げて人材を見つけようということ。特に中国は重要な国ですし、大使は現地の人に信頼されること、わかりやすく言えば中国要人と直接会えることが重要。その点、丹羽さんは中国要人とのパイプが太く、信頼できる方です。

藤本　さて、7月11日はいよいよ参院選です。もっとも、世間はサッカーW杯一色。日本代表は初戦カメルーンに快勝。19日はオランダ戦です。

岡田　カメルーン戦は前半、日本が1点を取ったのを見て「大丈夫だ」と安心して床に就きました。同じ名字の岡田武史監督（53）が叩かれるのはつらい（笑い）。頑張ってほしいですね。

藤本　名字だけでなく、実直な人柄も同じ。

岡田　そうかなあ（笑い）。

（構成・延　一臣）

岡田外相の著書「岡田語り。」

おかだ・かつや　1953年、三重県生まれ。通産官僚を経て90年、衆院選初当選。2004年5月から05年9月まで民主党代表。昨年9月、鳩山内閣の外務大臣に就任し、菅内閣でも再任。6月24日に自著「岡田語り。」（武田ランダムハウスジャパン＝写真）を上梓。「初当選から20年の節目にあたり、ブログで語ってきたことをまとめました。政治家としての言動や政策の背景にある様々な思いを率直に語っているつもりです。そういえば、本の帯にも『これからはマジメが日本の未来をつくる』とあったかな（笑い）」（岡田氏）

ふじもと・じゅんいち　1958年福岡県生まれ。新聞、雑誌記者を経て独立。著作に「永田町の幻影城」など多数。本紙で「永田町ワイドショー」好評連載中。

出典：東京スポーツ新聞　2010年6月20日付から